

はじめに

平成30年度は、低迷する秋サケの漁獲重量が4年ぶりに1万トンを超え、種卵も計画の4.6億粒を確保するなど明るい兆しも見せましたが、沿岸漁獲の北偏や、採介藻漁業のアワビ、ウニの県漁連共販取扱数量が140トン、69トン(むき身)と、28年度以降続く漁場の餌不足(大型海藻の生育不良)等により25年度以降最低、養殖業のホタテガイの同取扱数量も1,770トンと、麻痺性貝毒プランクトンの広域的な大発生とこれに伴う出荷規制の長期化等により同最低となりました。

また、養殖ホタテガイは、地種の天然採苗にも苦戦し、養殖ワカメは、巻き込み時期に海水温が高い、栄養塩が上昇しないといった環境のもと本養成の遅れや芽落ちが発生し、年明け後には、親潮系水の接岸による県中部以南漁場での水温低下により生長が停滞するなど厳しい状況に見舞われるといった問題の発生等もあり、東日本大震災津波からの水産業の復興に向けては、更なる取組みが求められる年度となりました。

このような中、岩手県水産試験研究中期計画(平成26年度～30年度)の見直し時期であったことから、関係の皆さまのご協力も頂きながら、これら課題への対応も盛り込む形で更新計画(2019～2023)を策定いたしました。

なお、「いわて水産アカデミー」(漁業就業希望者の地域への定着を促進するための就業準備研修受入組織)の開設が平成31年4月に予定されていたことから、新たに、アカデミー研修生の講義体制の整備等に取り組みしました。

さて、当センターは、平成6年4月に開所し、東日本大震災津波での壊滅的な施設被害等を乗り越え、お陰様で令和元年度に25周年を迎えました。これも偏に皆さまからお寄せ頂きました数多くのご支援の賜物と、改めて感謝申し上げます。

今後とも、漁業者はじめ関係の皆さまの期待に応えられるよう、新しい「いわて県民計画(2019～2028)」との整合を確保しつつ、大学や他の研究機関等との連携により、新たな時代に相応しい調査、技術開発及び実証研究を進めるとともに、いわて水産アカデミー修了生の確実な就業等にも取り組んで参りますので、引き続きのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和2年3月9日

岩手県水産技術センター所長
稲荷森 輝明